

## 特別演習

### 月例研究会 議事録 ( 4 月 )

2007 年度 第 1 回

<b>報告題名</b> マカッサル農村における灌漑管理の研究	
<b>報告者</b> 田中 洋子 (所属分野) 資源政策学	<b>日時</b> 4月26日(木) <b>場所</b> 第7講義室
<b>座長</b> 平口嘉典	<b>議事録担当者</b> 池田敦、紺野雄介
<b>出席者</b>	
<b>報告要旨</b> 修士論文「伝統農村社会における灌漑管理—インドネシア・マカッサル農村の事例研究—」内容について、残された課題の整理と今後の研究計画。主に、社会関係資本 (Social Capital) の計測方法について既存研究の整理と、これまでの調査結果・データを基にした分析の枠組みを検討する。  参考文献： Isham Jonathan, Kelly T and Ramaswamy S (eds) (2000), <i>Social Capital and Economic Development: Well-Being in Developing Countries</i> , Cheltenham and Northampton: Edward Elgar Publishing. 国際協力銀行 開発金融研究所 (2003)「参加型アプローチの費用便益分析—概念整理と推計の枠組み—」東京、JBIC	

## 質疑・応答

報告者：D1 田中洋子 担当：M2 池田 敦

平口：伝統的な水利組合では管理できないのか。管理水利組合をつくる必要があるのか。水の状況はどうなっているのか。

田中：水の状況は、調査したところでは、末端のところまでは水路ができていない状態。新しく水路、ポンプをつくり、それに合わせて水利組合をつくる必要がある。

平口：ポンプは水利組合が管理しているのか。

田中：組合という形ではない。

平口：伝統的な水利組合では、代用できないような農業の形態になっているのではないのか。

田中：対応はできている状態。

平口：農民は新しい水路を喜んでいいのか。

田中：はい。喜んでいます。

伊藤：伝統的水利組合と灌漑によってつくられる水利組合のズレはどこでも起こりうる。なぜここでは田中さんが調べてきたようなことが起こるのか。

田中：ジャワでは水利組合と行政の範囲が合っていてずれてない。すいません、あまり勉強していないので、勉強します。

伊藤：伝統的村落とは、いつから考えて伝統的と言っているのか。イスラムが入ってきた以降の話に感じる。

田中：イスラムの浸透度は、土着の信仰と混ざっていると感じた。また考慮します。

長谷部：伝統が何を意味するのかははっきりして欲しい。また、概念図が概念図になっていない、ここから何がわかるのかわからない。農学部他の研究室でインドネシアのことを研究しているから参考にしてみてはどうか。

田中：はい。

米倉：共同体のことについても考慮してみてはどうか。（イスラム共同体の例など）

田中：イスラム共同体ができていたという話はない。